

平成30年8月1日(水)
国土交通省 関東地方整備局
河川部 河川環境課

記者発表資料

～多様な水辺の価値を知って、観て、活かす～ ミスベリング勉強会(2)開催のお知らせ

国土交通省では、「資源としての河川利用の高度化」に取り組んでおり、「魅力ある水辺空間の創出」方法として、水辺を活用したい人々の取り組みを積極的に支援することを方策としています。

また、「多様な主体間の連携を促進する制度・運用の改善」として、「かわまちづくり支援制度」による民間連携やミスベリング・プロジェクトとの連携にも取り組んでいます。

今回は、癒やし・もてなし分野の専門家から水辺の価値について語って頂き、水辺を活用している民間事業者の方々を含め講演者との座談会を行います。

異業種コラボならではの座談会に参加してみませんか？

テーマ:多様な視点で水辺の価値を知って、観て、活かす。

主催:国土交通省関東地方整備局

日時:平成30年8月28日(火)13:30～17:15

場所:川崎市役所第4庁舎2階ホール

対象者:一般 (推奨:まちづくり関係者、医療関係者)

参加費:無料 (定員100名先着)

対象地域:関東地方整備局管内都県市区町村

申し込み方法:別紙(報道機関の方も全プログラム参加頂けます)

関東のミスベリング・プロジェクト

<http://www.ktr.mlit.go.jp/river/chiiki/index00000007.html>

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、都庁記者クラブ、神奈川建設記者会、埼玉県政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局河川部河川環境課

課長 吉川 宏治(よしかわ こうじ) (代表)048-601-3151(内線3651)

課長補佐 黒沼 尚史(くろぬま ひさし) (代表)048-601-3151(内線3656)

FAX048-600-1379

関東ミズベリング勉強会（第2回）

～多様な視点の水辺の価値を知って、観て、まちづくりに活かす～

日時：平成30年8月28日（火）13：30～17：15

場所：川崎市役所第4庁舎2階ホール

主催：国土交通省関東地方整備局

趣旨：多様な水辺の価値・利用方法を共有し、まちづくりと一体となった地域活性化に繋がる水辺活用の可能性を議論・創造したい。

プログラム

勉強会主旨説明

関東地方整備局河川環境課課長補佐 黒沼 尚史

1. ミツカン水の文化センター

機関誌「水の文化」、水の風土記、発見！水の文化他紹介

ミツカン水の文化センター 松本 裕佳

2. 日頃使わない神経を「水辺」が刺激する

機関誌「水の文化51号「水の回復力」より

日本ブレインヘルス協会理事長、杏林大学名誉教授 古賀 良彦

<休憩>

3. ～本物の地域活性化を考えよう～

水の風土記 地域の資源を磨くことで「もてなし力」がつく より

一般社団法人 まちの魅力づくり研究室 理事、東京大学名誉教授 堀 繁

4. 水辺から始まる市民主導の公民連携

三井不動産株式会社企画調査部上席主幹 辻田 昌弘

<休憩>

5. 座談会・意見交換

ファシリテータ 藤井 政人

パネラー

日本ブレインヘルス協会理事長 古賀 良彦

まちの魅力づくり研究室 理事 堀 繁

三井不動産株式会社企画調査部上席主幹 辻田 昌弘

comaecolor代表 篠塚 雄一郎

株式会社リビタホテル事業部 西山 尚子

6. ミズベリング的視点でもの申す～ミズベは川だけのものなのか～

ミズベリングアドバイザー 藤井 政人

申し込み先

国土交通省関東地方整備局河川環境課 黒沼・福元 宛

メール: ktr-kasenkankyou@mlit.go.jp

FAX: 048-600-1379

※申し込み期限: 8月23日(木)必着

関東ミズベリング勉強会(第2回)

～多様な水辺の価値を知って、観て、活かす～

主催: 国土交通省関東地方整備局

日時: 平成30年8月28日(火) 13:30～17:15

場所: 川崎市役所第4庁舎2階ホール(川崎区宮本町3番地3)

<http://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000015963.html>

対象者: 一般(推奨: まちづくり関係者、医療関係者)

参加費: 無料(定員100名先着)

対象地域: 関東地方整備局管内都県市区町村

| | |
|----------------|--|
| 団体名 | |
| 申し込み者氏名 | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| 代表者連絡先電話 | |
| 連絡用 メールアドレス | |

※報道機関の方も一般参加者と同様に申し込み・聴講できます。

※取材は参加者の支障とならないようにご配慮ください。

※参加者の方は、広報用に写真に写る場合がありますのでご了承ください。

藤井政人 Masato Fujii

1991年建設省(現・国土交通省)に入省。関東地方整備局企画部企画課長、近畿地方整備局企画部企画調整官などを経て、国土交通省 水管理・国土保全局河川環境課 河川環境保全調整官の時にミズベリング・プロジェクトを立ち上げ。ミズベリング東京会議・大阪会議・広島会議・MIF・水辺で乾杯など多数企画。J-WAVEの「Gratitude」・「Prime Factor」では水辺を演出する『ミズベリスト』として出演。ブルードリンク協会会長。岐阜県生。



2014年 ミズベリング東京会議 <https://mizbering.jp/archives/6798>



2015年 ミズベリング世界会議 バトルトークセッション

https://www.kkr.mlit.go.jp/river/manabuasobu/qgl8vl0000006zw-att/mizberingseikaikaigi_kirokushu.pdf

ミズベリング インスパイアフォーラム2015「川ろうぜ」 <https://mizbering.jp/archives/13176>



2015年 ERES 公開フォーラム 2015 基調講演

『市民・企業・行政が三位一体となって水辺を変える！
それが、ミズベリング・プロジェクト！』

<https://mfec.jp/forum/2015-11-12/>

2016年 第1回アドバイザーボード会議

<https://mizbering.jp/archives/20645>



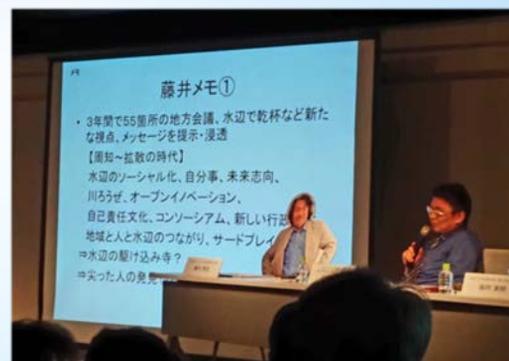
自分がやるっていう気分になってもらわないと、何やってもたぶんまったく意味が無いんだろうなっていう気がします。



2017年 ミズベリング・デアアイデアス <http://mizbering.jp/md>

2017年3月3日「水辺の日」、新しい出会いやアイデアが生まれる場「ミズベリング・デアアイデアス」が、東京ソラマチで開催された。このフォーラムには全国各地からミズベリスト約180人が大集結！

プレゼン動画 <http://mizbering.jp/pecha2017>



設立目的

- 一、「水の文化」にかかわる研究活動を行いその成果を広く公開し、啓発活動を展開することで「水」に対する意識の向上を図っていく。
- 二、新しい「人と水とのつきあい方」の提案を通して人々の豊かな暮らしの創造に貢献していく。



松本 裕佳 企画・運営

機関誌『水の文化』

「人と水」「人と人」のかかわりの中で生み出された「水の文化」を発掘し、提言する冊子です。



- ▶ 機関誌『水の文化』
- ▶ バックナンバー
- ▶ 目次総覧

里川文化塾

目指せ「里川」！ワークショップで「使いながら守る水循環＝里川」とのつながりを発見し考えていきましょう。



- ▶ 里川文化塾
- ▶ 開催レポート
- ▶ 自分でも開催！里川文化塾

発見！水の文化

身近にある“水の文化”を再発見し、私たちの生活を取り巻く“水の恵み”に気がつくきっかけとなるような、気軽なイベントです。



- ▶ 発見！水の文化
- ▶ 実施報告一覧

水の風土記

魅力あふれる、独自の「水の文化」を培っている「人」や「事・場」をお訪ねして、研究や活動を紹介します。



- ▶ 水の風土記
- ▶ 「人」ネットワーク
- ▶ 「事・場」ネットワーク

http://www.mizu.gr.jp/hakken/yokoku/008_20180623_cruise.html

東京の水辺を、船から一緒に眺めてみませんか？

「発見！水の文化～船でめぐる東京の水辺～」

第10回 江東の内部河川編 10月13日（土）開催決定！

（※9月14日(金)より応募受付開始）

第10回は船で東京の水辺を巡る企画を準備しました。「江東の内部河川編」を実施します。東京都江東区には、江戸時代に舟運網として作られた運河が今も多く残っています。そして、現在もその運河は市民の憩いの水辺として活用され、生活に溶け込んでいます。そんな江東の内部河川を視点を変えて船から眺めることで、江戸時代から市民に欠かせない存在であった運河の歴史を学び、これからの東京の水辺の可能性について考えてみたいと思います。このイベントのルートには、「荒川ロックゲート」が入っており、水面差が最大3.1メートルにもなる荒川と旧中川を結んでいます。この完成により、それまでできなかった船の往来が可能となりました。船のエレベーターとも言われるロックゲートを通過し、水位変化を体験してみませんか？

日ごろ使わない神経を 「水辺」が刺激する

「水の文化」51号「水の回復力」寄稿時の情報

古賀 良彦（こが よしひこ）さん

杏林大学医学部精神神経科学教室教授
日本ブレインヘルス協会理事長

1946年（昭和21）東京都生まれ。1971年（昭和46）慶應義塾大学医学部卒業。医学博士。1976年（昭和51）杏林大学医学部に転じ、助教授、主任教授などを経て現職。うつ病、睡眠障害、統合失調症治療・研究のエキスパートとして、日本催眠学会理事長、日本薬物脳波学会副理事長なども務める。著書に『いきいき脳のつくり方』（技術評論社 2010）、『早引き 心の薬事典』（ナツメ社 2011）など。



日々感じる何かしらのストレスは、「三つのR」に表されるストレス対処法によって軽くすることができるという。そして、滝を眺めたり、川辺で穏やかな時間を過ごすといった「水空間にふれること」でも同じような効果が得られるそうだ。私たちが心身を健やかに保つヒント、そして水辺が人の心にもたらす価値について、精神科医の古賀良彦先生に語っていただいた。

「水辺」は人にとってよい状態をつくる

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。」と鴨長明が『方丈記』で記しているように、川はいつも新鮮なものです。滝や湖もそうです。ずっと同じところに同じ水があるわけではなく、刻々と変化しています。そもそも、水があれば、そこには生命がある可能性がきわめて大きい。水から生まれた人間という存在をみんな無意識に感じていて、だから水のたっぷりあるところに行くと懐かしい感じがしたり、くつろいだ気分になると思うのです。

日常とは違う世界に一瞬でも連れていく

私たちの日常のほとんどの場面は、テレビやパソコン、スマートフォンが支配する「オーディオビジュアル」の世界だといわれています。つまり五感がありながら、「見る」「聞く」の二つしか使っていないのです。しかし、水辺は私たちが普段使っていない感覚をもたらします。

水辺に行くと、水にさわってみたり足を浸けたりという行為を、自然にやろうとしませんか？ また、湖でも川や滝でも、森の香りや生きものなど、必ず新鮮な「匂い」があります。このような感覚は、オーディオビジュアルだけで味わうことはできません。普段使っていない感覚を自然のなかで刺激する。それが、自分を一瞬でも日常とは違う世界に連れていく。だからリクリエーションにつながるのだと思います。

地域の資源を磨くことで 「もてなし力」がつく

～ほんものの地域活性化を考えよう～

「水の風土記」寄稿時の情報

堀 繁 ほり しげる

東京大学アジア生物資源環境研究センター教授

1952年生まれ。環境庁自然保護局主査、東京大学農学部助手、東京工業大学社会工学科助教授などを経て、1996年より現職。国土審議会、歴史的風土審議会の各専門委員の他、多数の委員等を歴任。地域の発展を前提とした景観、アメニティ、観光リゾート、自然環境保全の計画設計を中心課題としている。



これもホスピタリティー表現の一つなのですが、**私たちは、見たい物が、きちんと見えている状態を喜ぶんです。**ところが、下の写真を見ますと、共同浴場の建物が邪魔して、町並みが見えていない。それに、「私のことを大事にしてくれる」というホスピタリティー表現がない。見たいものをちゃんと見せて、もてなししているという表現を入れること、これが非常に重要なわけです。それによって、この地域の資源である川が、どれだけ変わってしまうか。



こうすることによって、川を見るチャンスが増えて、いい川があるなと思う。川や水があるだけでは駄目なんです。その水が、「なるほどいい水があるな」と、「見えるようにする」。しかも、ゆっくりくろいで見られればなおいい。何十分とこの足湯に浸かりながら見れば、いい川があるなという実感が全然違います。下の二つの写真を比べても印象が全然違いますでしょう。



辻田 昌弘 Masahiro Tsujita

三井不動産株式会社企画調査部上席主幹

1980年、三井不動産株式会社に入社。2003年より(社)経済団体連合会 21世紀政策研究所研究主幹。2007年より三井不動産株式会社S&E総合研究所長を務め、2014年-2017年東京大学公共政策大学院 特任教授。ミズベリングの「スモール&クイック」な政策形成プロセスに新たな可能性を期待している。



2015年 水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会参加

<https://mizbering.jp/archives/5776>

「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」は、市民や民間のチカラ（カタイお役所では考えない知恵やノウハウ）を積極的に発言してもらい、市民・企業・行政が三位一体になれる環境づくりにはどうしたらいいかを話し合うために、各界の有識者を集めて会議をしています。

そこから、未来に向けての水辺のまちづくりのヒントを引き出そう、というものです。

2015年 ERES 公開フォーラム 2015 (主催：東京大学公共政策大学院)

「民間の活用」から「民間との協働」へ～市民・民間主導の地方創生に向けて～

<https://mfec.jp/forum/2015-11-12/>

2016年 MIZBERING JAPAN | ミズベリング ジャパン

<https://mizbering.jp/archives/19205>



「水辺をベースにした地域活性化に向けて、立場を越えて意見交換し、横のつながりをつくろう」という掛け声で始まったこのフォーラム。当日は、全国各地からミズベリスト約600人が大集結！

2016年 水辺からはじまるエリアマネジメントって？ ミズベリングテーマ会議

<https://mizbering.jp/archives/19993>

ミズベリング的、エリアマネジメントのあり方とは？
辻田「アメリカは人材が流動的なので、様々な職能を持った人たちが集まっています。日本は人材間の対話が足りないのではないかと思います。縦割りではなく、組織を横断できる人材を育てることが必要だと思えます。」

エリアとしてなにかを起こそうとするとき、特に公共空間においてなにかアクションを起こそうとするときには、関係各所を巻き込んでいく必要があります。それぞれの力を持ち寄って、みんなでひとつのビジョンに向かっていく推進力が求められています。



2018「居心地良い場所（グッド・プレイス）」は自分たちでつくる 市民主導の公民連携

<https://mfec.jp/articles/201803mizbering.html>

西山 尚子 Naoko Nishiyama

青をこよなく愛す、水辺研究家

(株)リビタ ホテル事業部

1982年横浜市生まれ。2005年多摩美術大学環境デザイン学科卒。商業施設の内装デザイン・設計会社を経て、2015年(株)リビタに入社。現在は、新規ホテルの開発推進業務に従事し、プランニングから現場調整までの業務を担当。LYURO東京清澄においては、建物の企画や空間デザインを担当し、開業後はイベントの企画運営に携わりながら、「水辺での時間の過ごし方」を提案している。



水辺で乾杯2017動画

(LYURO 東京清澄 -THE SHARE HOTELS)

<https://youtu.be/AqXkXZJA5Wc?list=PLGPrWqYtg2HnHbgFmGgg9B016OgcfMUaS>

「水辺で乾杯動画」の会場は、築29年のオフィスビルをホテルへとコンバージョンし、2017年4月開業した水辺のホテルのデッキ(通称:かわてらす)。
ホテルの付帯施設として、一般の方も利用できる「かわてらす」・レストラン・ギャラリースペース・ショップがある。そのスペースを地域に開放。「かわてらす」では、朝ヨガやランニングイベントやクラフトマーケットなどを開催し、宿泊者と地域の方とが交流できるようなきっかけの場となっているようだ。

2016 ミズベリング・ジャパン

<https://mizbering.jp/archives/19205>

「水辺の覚醒プレゼンテーション」Powered by PechaKuchalにて、当該ホテルの川床が「建築物」か「(準用)工作物」かで難しい対応が必要だったことが紹介されている。



2018年 満員御礼!多摩川を面白がる会!共催

<http://www.share-place.com/magazine/report/1936>

○ ○を面白がる会とは…?

街の課題など難しい課題に対して、自分ごととしてとらえ、今までの慣例や常識にとらわれず、これからはこうだったらいいというアイデアをプロも素人も一緒にプレストすること。リビタ運営のシェアプレイス調布多摩川で総勢約40名の参加



2018年 大学生観光まちづくりコンテスト多摩川ステージ説明会 多摩川をどう使いこなすか

<https://mizbering.jp/archives/22133>

7月「大学生観光まちづくりコンテスト2018」の多摩川ステージ、多摩川下流域3自治体合同説明会がシェアプレイス調布多摩川で開かれた。

「同コンテスト」は観光まちづくりを通じた地域活性化プランを競うコンテストで、大学生にとっては実践的な教育の場。リビタもスポンサーとして参加、合同説明会に会場提供



篠塚 雄一郎 Shinozuka Yuichiro

1971年東京生まれ。大学卒業後、建設コンサルタント会社勤務を経て、2008年より株式会社日建設にて、国内外の都市開発プロジェクトに従事。2013年にたまたま移り住んだ狛江市にて、DIYスタイルで地域を面白くするチーム「comaecolor」を結成し、代表を務める。飲食、音楽、デザイン、webなど様々な業種の大人がプロボノで取り組み、多摩川河川敷での2日間のイベント「タマリバ」や旅館の敷地を借りた週末限定カフェ「ソトカワダ」を公的資金ゼロで運営。



comaecolor

東京・多摩地域にある「狛江市」を「もっと楽しい場所にしたい!」という思いから立ち上がった団体。2日間で7000人の集客、多様な営業活動で行政予算に頼らず黒字化達成。

2017.06.18 14:37

タマリバのはじまり

<https://tamariba.amebaownd.com/>

かつて多摩川河川敷ではBBQも花火もできました。

しかし残念ながら利用者のマナーの悪化で、いまではそれらは一切禁止となっています。

狛江の大切な資源である多摩川を新たな取り組みで、多くの人に楽しんでもらうことができないだろうか？

そんな発想から、このプロジェクトは始まりました。



TAMAGAWA RIVERSIDE FESTIVAL
TAMARIBA 2017
Tamagawa Riverside Festival
2017.10.8(SUN)-10.9(MON)
和泉多摩川河川敷 大きなヤナギの木周辺
FOOD MUSIC CINEMA WORKSHOP ACTIVITY ETC
PRODUCED BY COMAECOLOR



●安全を持続的に確保するための今後の河川管理のあり方について(答申) 平成25年4月

2. 魅力ある河川を残していくために

(1) 総合的な河川の管理

平成9年の河川法改正を経て、河川環境の整備・保全是、治水、利水と並んで河川管理の目的として明確に位置づけられ、これを推進するために、多自然型川づくりから多自然川づくりへの転換、自然再生事業やかわまちづくり制度の創設等、制度や予算等の面から様々な仕組みが整えられてきた。

一方、自然と共生する社会の構築を目指し策定された生物多様性国家戦略(平成24年9月閣議決定)においては国レベルで明確な目標とその実現に向けた行動計画が示され、様々な社会経済活動に生物多様性の保全と持続可能な利用の観点からの規範を与えている。これに対して、河川の生物多様性に関する取組は個々の現場での個別対応になっており、国レベルでの目指すべき方向を明確にするとともに、それを実現するための具体的な手段を体系化して河川管理の現場に提示・ルール化することは重要な課題である。このような取組を進める等により、河川環境の整備と保全を内部化した川づくりの仕組みを再構築し、治水、利水、環境が本格的に一体化した河川管理を推進することが求められる。

(2) まちづくり等と一体の取組

世界の都市では、都市を代表する河川と周辺の町並みが一体となって美しく品格のある空間が形成され、多くの人々に親しまれている。我が国でも、浮世絵に描かれた江戸の下町と大川のように、かつて川は身近な存在であり、周辺の町並みと融け合って都市を代表する風景を形成する等、地域にとってなくてはならない存在であった。

しかしながら、高度成長時代を経て現在に至り、我が国の多くの中小河川は、効率を重視した排水路と化し、町並みからも背を向けられた状況となっている。これに対して、河川管理者は、地域と連携してまちづくりと一体となった河川空間の整備・利用を進めてきたところであるが、その取組はいまだ十分であるとはいえず、景観や水環境が劣悪なままの河川も多い。

近年、我が国の都市では、河川の水辺周辺における民間の再開発などにより都市の再構築が進められ、各地でシンボルとなるような都市空間が形成されている。

また、各地で河川がもつ豊かな自然や美しい風景を活かし観光により地域振興を図ろうとする動きもある。このような機会を捉えること等により歴史・文化のある都市や地域にふさわしい魅力と品格を備えた川づくりが進むよう、質の高い利用の促進や民間企業との連携等の視点を重視し、まちづくりと一体となった川づくりの方向性等を検討することが重要な課題である。

資源としての河川利用の高度化に関する検討会 「課題の整理と進めるべき方策」

http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/shigenkentou/index.html

【進めるべき方向性・方策】

民間による水辺での事業参入を促し、民間の資金やノウハウを活用した河川敷地の有効利用を一層促進すべき。

そのため、適正な河川利用について検討しつつ、河川敷地占用許可準則を改正し、営業活動を行う事業者等の占用許可期間を公的主体と同程度にまで延長することが効果的である。

水辺を活用したい人々の取組みを積極的に支援すべき。

そのため、全国における河川空間のオープン化の多様な取組事例をモデルケースとして紹介するとともに、取組みを支援するための窓口の周知などを行うことが効果的である。

まちづくりと一体となった水辺整備など行政の施策を推進すべき。そのため、利用者にとって快適で安全な水辺空間を創出する「かわまちづくり」支援制度の活用などを積極的に進めることが効果的である。

多様な主体間の連携を促進する制度・運用の改善に努めるべき。特に、「かわまちづくり」支援制度による民間連携を進めることが効果的である。

あわせて、民間、自治体、個人等に対し、「ミズベリング・プロジェクト」との連携などによるサポートを行うことが効果的である。

また、協議会など水辺の利用を推進する主体が法人格を取得することも有効である。